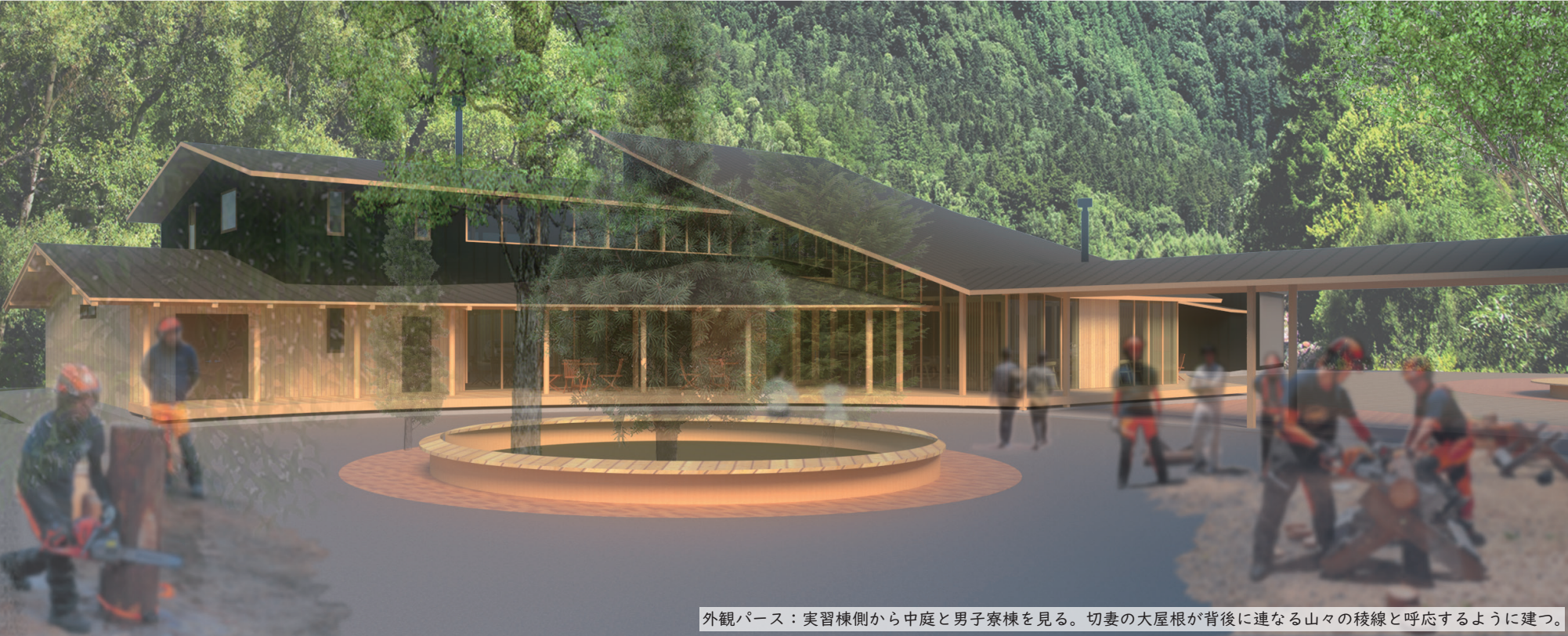


Ⅰ．地域の気候風土と景観に調和した施設

地域の方々にも愛されるような、どこか懐かしさのある建物

木曽町は総面積の95.4%を山林が占める緑豊かな山間の町です。雄大な山々に囲まれ、ゆったりとした時の流れを感じさせる集落の景観はどこか懐かしく、失くしてはいけないものだと感じます。新しい男子寮棟は木曽町にある昔ながらの風情をのこした民家のように緩い勾配の切妻屋根を持つ2階建て木造建築としました。食堂部分にかかる大屋根は求心力を持ち、重なり合う屋根は建物のボリュームをヒューマンスケールへと近づけ学生を建物へと導きます。新しい男子寮棟に住む男子学生だけでなく、女子学生、林業大学の講師や職員、地域の方々をも優しく包み込むような、どこか懐かしく、それでいて新しい姿の建物を目指しました。

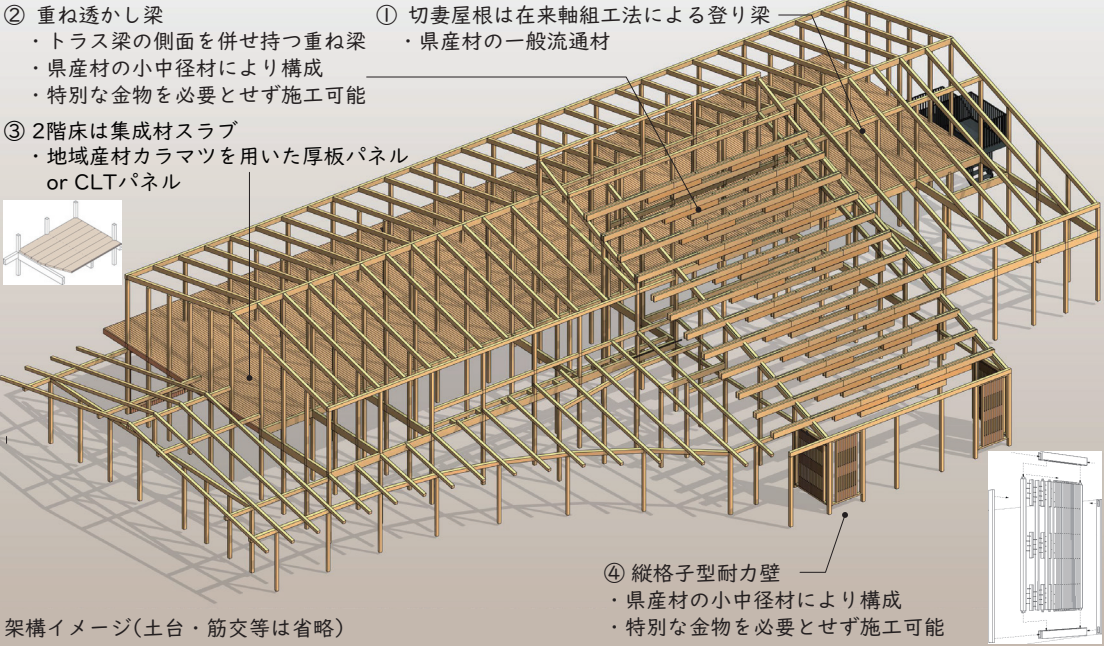


外観パース：実習棟側から中庭と男子寮棟を見る。切妻の大屋根が背後に連なる山々の稜線と呼应するように建つ。

2. 木材を積極的に活用した施設

伝統的な木構造の技術を応用し適材適所に組み合わせた合理的な構造の提案

木曽地域産材や県産材のヒノキやカラマツなどを使用し、地元の技術で施工できるように在来軸組工法を基本とした構造を提案します。本計画の中で最も大きな空間となる食堂では既存技術を応用し、一般流通材で特別な金物を必要とせず施工が可能な重ね透かし梁や縦格子型耐力壁により地域独自の工法として新しい木構造へのアプローチを試みます。重ね透かし梁や縦格子耐力壁は伝統的な木組みや宿場町の千本格子に通じる美観を持ちます。2階床は集成材スラブを用いることで床剛性を確保しながら容易にベランダの跳ね出しを構成することができます。集成材スラブを用いることで、工期の短縮やCLT補助金の活用なども可能です。また下階の寮室への足音などの衝撃音を低減する効果も期待できます。



架構イメージ(土台・筋交等は省略)



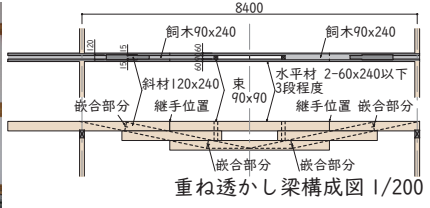
食堂内観パース：木の構造が印象的な明るく開放的な食堂。吹抜けを介して2階ともつながる。

木造の経験豊かな設計チーム

在来軸組工法だけでなくCLTといった新しい工法にも精通し、技術開発を行うなど木造の経験豊かな設計チームを組んで設計業務を行います。重ね透かし梁や縦格子耐力壁は地域産材を適材適所で選定し耐力試験を行うなど、地域独自の工法として技術開発することも可能な体制をつくります。



地域産材を活用して開発した耐力壁の例



緩い勾配の大屋根は木曽町のスタンダードな形態

緩い勾配のついた大屋根は周囲の建物や景観によく馴染みます。木曽町の冬は寒さこそ厳しいですが積雪量は多くないため緩い勾配の屋根に雪をのせておく計画とします。



鳥瞰パース：木曽町といえば朱い屋根というイメージもあるが、敷地内の既存建物に合わせて銀灰系としている。

厳しい寒さの木曽町では冬の日差しは貴重な熱源

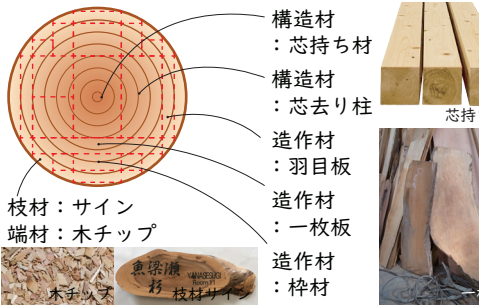
寮室は全戸南向きに配置し日差しを取り込むことで室内の温度を保つ計画とします。南向きのハイサイドライトを設けることで食堂や廊下にも温かさと明るさを確保します。



外観パース：黒川側から男子寮棟を見る。寮室の開口が整然と並び、

一本の木を余すことなく活用する

構造材から造作材までバランスよく木取りを行い、端材も木チップとするなど一本一本の木を貴重な資源とし余すことなく活用します。



木曽町ならではの木材を使用する

木曽五木を適材適所に用いることで、色味や香り、耐久性の違いを実感をもって学べる建築とします。



木曽地域の工芸や技術を活かし伝える

木曽地域で盛んに製造されている木製の桶・樽の技術を活かし、伝えていくためにも浴槽、浴室の木質化を提案します。



学生と共に造り、共に維持していく

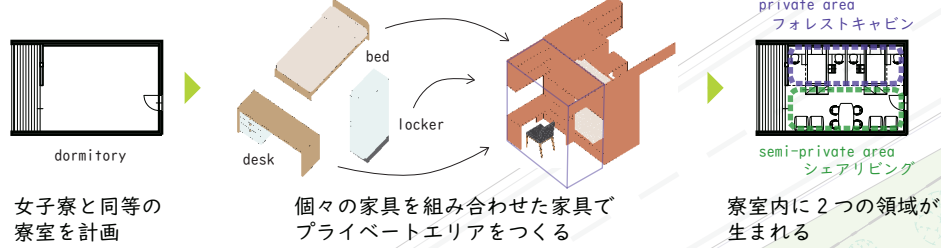
学生が製材した部材をデッキやベンチに使用することで日々の学びの成果を体感できる場とします。



3. 機能的な寮室の平面計画

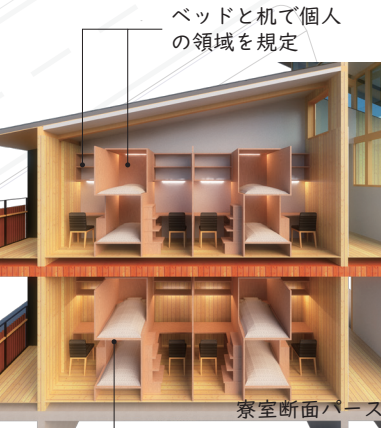
コミュニケーション能力を育みプライバシーを尊重しあえる関係性をつくる

危険な作業を伴う林業において行動を共にする仲間とのコミュニケーションはとて重要になります。コミュニケーション能力を育む環境と個人のプライバシーを確保できる環境を両立するため、寮室内に必要な家具を組み合わせるプライベートエリアを構築する「フォレストキャビン」を提案します。フォレストキャビンは家具としてつくることで女子寮への転用も可能です。



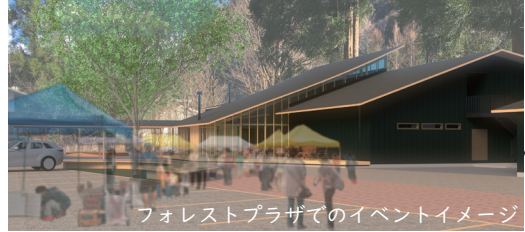
フォレストキャビンの構成

フォレストキャビンは規格寸法のパネル材で容易に組み立てられる構成とします。学生が自分たちで作り補修、改造していくことも可能です。



規格のパネル材で構成補修も容易に行える

イベント利用だけでなく、近隣の子どもが遊びに来るなど日常的に地域に開かれたフォレストプラザ



主要諸室面積		エリア別面積表			
食堂	90.88㎡	1F	2F	計	
多目的室	33.34㎡	パブリックエリア	160.29㎡	—	160.29㎡
厨房	56.72㎡	管理部	143.73㎡	—	143.73㎡
寮室(1部屋)	30.24㎡	寮室	151.20㎡	211.68㎡	362.88㎡
浴室・脱衣室	31.23㎡	共用部	118.15㎡	87.99㎡	104.11㎡
		計	573.36㎡	249.67㎡	873.03㎡
			(ボイラ置場 20.00㎡)		

図中凡例	パブリックエリア	寮室	男子学生専用とし、女子学生は原則立入禁止
管理部	共用部		
既存渡り廊下動線	学生動線	実習車両動線	
新設渡り廊下動線	男子学生動線	視線の抜け	

1 ~ 5. 共通

中庭と広場を囲み、木曽町の自然に包まれるキャンパスの全貌

男子学生にとってだけでなく、キャンパスを利用するすべての人にとって魅力が増すようにオープンスペースとパブリックエリアを充実させます。中庭と広場を囲み、季節や時間に合わせて居心地のいい場所を見つけ、木曽町の雄大な自然に抱かれながら充実したキャンパスライフを過ごせるような提案をします。



4. キャンパスの全体計画と動線計画

キャンパス全体を活性化する配置計画と将来への展望

① 新男子寮建設



既存建物と十分な離隔距離を確保した配置計画

- ・建設中の寮生活やカリキュラムへの影響を低減
 - >実習場所や駐車スペースを維持できる
- ・女子寮棟への影響（延焼、日陰etc.）を低減

広場樹木の伐採は最小限に、記念樹以外も移植

- ・中庭計画地などに記念樹以外も積極的に移植する
 - >移植できない樹木は建材や薪材などに利用する

黒川沿いの南側道路に車両出入口を計画

- ・建設中は工事車両動線として学校車両動線と区別する
- ・建設後は実習車両動線として4+車両でも通れる計画

② 既存男子寮解体



既存の動線とつながる単純明快な動線計画

- ・屋根付きの渡り廊下を既存の渡り廊下とつなげる
- ・既存男子寮の解体に影響がないよう計画

解体工事中の影響も最小限となる計画

- ・解体中の寮生活やカリキュラムへの影響を低減
 - >十分な工事範囲を確保可能、防音対策をした仮設計画
 - >実習場所や駐車スペースも確保可能

中庭「フォレストコート」を計画

- ・女子寮棟との間に実習や交流の場となる中庭を計画
- ・実習用車両が十分に転回できるスペースを確保

③ 跡地の活用



駐車場兼広場「フォレストプラザ」を計画

- ・イベント利用など地域にも開かれた駐車場兼広場を計画
- ・駐車場は職員+1学年分+α程度の台数を確保可能
- ・存置要望のある栗の木を中心にたまり場を計画

広場、中庭を活かすパブリックエリア

- ・実習時の休憩や団楽の場所になる屋根付きデッキテラス
- ・広場と中庭を一望できる一般開放も可能な食堂
- ・女子学生も入りやすい動線とした多目的室

男子寮室は環境と女子寮に配慮した計画

- ・全戸南向きにすることで冬の太陽光を取り込む
- ・女子寮側には居室を配置せず、ベランダなども設けない

④ 将来の展望



将来キャンパスマスタープランの提案

- ・男子寮棟の建替えによりキャンパス全体が活性化
 - >女子学生や職員、講師にとってもより良い環境になる
- ・本館棟、講堂棟は配置はそのままに建替えを行うことで大学の顔となる建物を国道側に計画
- ・既存の植栽帯を活かしながら人を迎え入れる前庭を整備
- ・講堂棟建替時には食堂を講堂として利用可能
- ・本館棟建替時には広場を仮設校舎用地として利用可能
- ・広場や中庭周辺に植樹を行いさらに緑豊かな大学へ
 - >木曾五木など地域に根差した樹木を記念に植樹

全体計画ダイアグラム 1/3000

5. 自然と共存した施設計画

自然エネルギーを活かし LCC、LCE、LCCO2 を低減する環境計画

木曽町の気候、既存建物に配慮しながらサステナブルな建物を目指します。木曽町で推進している木質バイオマス燃料もストーブや給湯などに積極的に利用します。

